

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標3_経済・雇用】

施策 3-3_雇用環境の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
3-03-01	産業を支える人材の確保	05035_01	サポステフォーラム開催事業
3-03-01	産業を支える人材の確保	05057_02	合同企業説明会開催事業
3-03-01	産業を支える人材の確保	05057_03	インターンシップ支援補助金
3-03-01	産業を支える人材の確保	05057_11	新居浜市まち・わざ・しごとフェス開催事業
3-03-01	産業を支える人材の確保	05062_01	企業魅力発信事業
3-03-02	働きやすい環境づくり	05011_02	シルバー人材センター運営補助金
3-03-02	働きやすい環境づくり	05011_03	県シルバー人材センター連合会負担金
3-03-02	働きやすい環境づくり	05011_04	シルバー人材センター運営資金貸付金
3-03-02	働きやすい環境づくり	05030_01	労働金庫預託金

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	05035_01		
事業名(行目名称)		サポステフォーラム開催事業費	細事業名	サポステフォーラム開催事業			
総合計画	まちづくり	経済・雇用	施策	雇用環境の充実			
	基本計画	産業を支える人材の確保	担当課	産業振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内の15歳～概ね34歳の社会的自立を目指す若者	数値	約600(推計)			
	手段(どうやって)	事業のPR活動(チラシの配布、市政だよりの活用など)を実施したほか、若者自立支援フォーラムを開催する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	東予若者サポートステーションは、新居浜市民文化センター本館2階の事務所を相談拠点として活用し、将来的な就労を視野に入れて現状改善を望んでいるニート・ひきこもり等の状態にある若者本人または家族に対して、相談業務や研修などの支援を行うことにより、就職または職業訓練へとつなげる。若者の職業的自立支援に取り組む体制づくりの一層の促進を図るためには、若年無業者の現状や就労へ向けた取組み・課題について広く市民に周知する必要がある、市は、そのためのセミナー開催					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	若者自立支援フォーラム委託料 115千円	
経費		115	115	115	115		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	115	115	115	115		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
若者自立支援フォーラムの参加人数		目標値	60	60	60	60	60
		実績	56	36	0	39	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する				
雇用情勢の改善が続く一方で、様々な問題を抱える若年無業者は依然として多く存在する。フォーラム開催により、東予若者サポートステーションの利用者の増加や地域全体での若者の自立支援の強化等に寄与しているが、初回から10年以上が経過し、今後はより有効な手段の検討が必要であると考えます。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
手段の改善は検討していくが、予算は現状維持の方針で行っていく。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
若者やその家族、勤労支援関係者など計39名が参加。困難を抱える若者のうち、発達障害の方の「働く」をテーマに、発達障害の方の特性や支援方法等について事例を交えて考えるフォーラムとなった。若年無業者の自立支援を行うことは労働力確保の観点からも大切であり、あわせて東予若者サポートステーションの利用者促進のために、今後もターゲットに対しより有効な手段を検討しつつ事業を継続していく必要がある。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	05057_02		
事業名(行目名称)		雇用対策費	細事業名	合同企業説明会開催事業			
総合計画	まちづくり	経済・雇用	施策	雇用環境の充実			
	基本計画	産業を支える人材の確保	担当課	産業振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	UIJターン就職を希望する大学生(4年生)	数値	4000			
	手段(どうやって)	主に県内の大学に進学している本市出身者をターゲットとして、松山市での会社説明会を実施する。また、近隣の西条市・四国中央市と合同で実施することにより、本市のみで実施する以上の企業数、参加者数を確保する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	松山市において本市企業の合同説明会を開催することにより、効果的なリクルート活動が可能となり、市内企業の人材確保、本市へのUIJターンの促進を図ることができる。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,519	2,540	2,540	2,530	合同企業説明会運営業務委託料 2,540千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	2,519	2,540	2,540	2,530		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
参加人数		目標値	150	150	150	150	150
		実績	106	239	0	72	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
令和4年3月の開催に向け、現在3市において準備を進めている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
人手不足が継続しており、地元企業の人材確保につながる施策として、今年度と同様の予算規模及び方法にて事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
会場で実施したアンケート結果より、理系学生の参加が少なかつたため、ものづくり分野の観点から理系学生へのアプローチ方法を検討し、また、大学の就職課経由や立地の近い中国・関西地方からの申込みも一定数あり、次年度は更なる広報媒体・手法を活用し広報を実施していく。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	05057_03		
事業名(行目名称)		雇用対策費	細事業名	インターンシップ支援補助金			
総合計画	まちづくり	経済・雇用	施策	雇用環境の充実			
	基本計画	産業を支える人材の確保	担当課	産業振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	補助対象業種(大分類)市内中小事業所		数値	約4700		
	手段(どうやって)	インターンシップの実施においては、学生が交通費・宿泊費を負担する必要があり、市外からインターンシップ生を確保することが難しいため、中小企業が実施する雇用確保のためのインターンシップ事業において、実施企業が学生が負担する交通費・宿泊費を負担した場合、その経費の一部を助成することで、市内中小企業のインターンシップ実施を促進する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	大学3年次(高専4年次)に実施するインターンシップが人材確保につながる傾向が強くなってきていることがわかっているため、地元企業のインターンシップの実施を推進する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		187	1,200	1,200	225	インターンシップ支援補助金 1,200千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	187	1,200	1,200	225		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
制度活用企業数			目標値	5	5	5	5
			実績	8	3	4	5
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
インターンシップにかかる交通費や宿泊費を企業が負担することは、人材確保や知名度向上等に効果的であると考えられるため、インターンシップの支援を継続して実施する。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
今後も企業における若年層の人材確保の問題は深刻化すると予想され、市内における人材確保対策の一つとして、継続して実施する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
5社が制度を利用し、18名の学生がインターンシップへ参加、補助を行った。新型コロナウイルスの感染状況は、企業側の実施状況や学生の参加状況に影響していると考えられるが、インターンシップの実施は人材確保の手法として有効であるため、引き続き事業の継続を行う。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	05057_11		
事業名(行目名称)		雇用対策費	細事業名	新居浜市まち・わざ・しごとフェス開催事業			
総合計画	まちづくり	経済・雇用	施策	雇用環境の充実			
	基本計画	産業を支える人材の確保	担当課	産業振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	高校生及び女性やファミリー層		数値	約5,000人(類似イベント推計)		
	手段(どうやって)	高校の就職希望者を対象に合同企業説明会の開催及び女性対象のお仕事相談会や働き方・女性活躍などをテーマとしたセミナーの開催、また、新居浜の産業・観光などの魅力をPRするイベントを実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜の産業及び新居浜で働く魅力を幅広く発信できるような開催を図り、少しでも多くの方々に新居浜で働こうと思ってもらえる、きっかけづくりに繋がるよう実施していく。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		0	9,900	9,900	9,900	まち・わざ・しごとフェス開催事業業務委託料 9,900千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	0	0	0	0		
	その他	0	9,900	9,900	9,900		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
高校生合説+フェス参加人数		目標値	-	-	5000	5000	5000
		実績	-	-	150	40150	-
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
7月に高校生合同企業説明会を開催し、150人の参加があった。また、11月に女性お仕事フェス、産業PRイベント等を開催予定で現在準備を進めている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
新居浜で働こうと思ってもらえる、きっかけづくりに繋がるよう、今年度と同様の予算規模で事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
就職希望者の地元定着を図るため、地元企業や新居浜市の産業について知ってもらう場を提供する取り組みは今後も必要である。実施後発見した気づきや課題をブラッシュアップしつつ、今後も事業を継続していくことが重要であるとする。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	05062_01			
事業名(行目名称)		企業魅力発信事業費	細事業名	企業魅力発信事業				
総合計画	まちづくり	経済・雇用	施策	雇用環境の充実				
	基本計画	産業を支える人材の確保	担当課	産業振興課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市内の事業者数		数値	5377			
	手段(どうやって)	働き方改革に取り組む企業を認定する「働き方改革推進企業認定制度」、SDGsに関する取り組みを行う企業を登録する「SDGs推進企業登録制度」の実施により、企業の魅力向上を図り、効果的な情報発信を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	企業の魅力向上、効果的な情報発信により、人材確保、企業価値の向上を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		4,568	7,500	7,500	6,499	委託料(企業魅力発信業務)3,500千円 委託料(働き方改革支援事業)2,000千円 奨励金(働き方改革推進企業新規認定企業)2,000千円		
財源	県・国支出金	1,483	0	0	2,749			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	3,085	7,500	7,500	3,750			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
働き方改革推進企業認定件数及びSDGs推進企業登録件数			目標値	-	30	30	30	25
			実績	-	0	27	25	-
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
SDGs・働き方改革への関心を持っている企業が多いため、本制度への登録・認定企業については一定数見込める。昨今、SDGsに関心が集まっており、令和3年度に入り、SDGs推進に取り組む企業から、本制度への問い合わせが増えてきている。一方で、働き方改革の推進にあたっては、今年度から支援事業を計画して実施しているが、参加企業が想定より少ない。働き方改革に取り組む必要性を感じている企業は多いものの、3年間の認定期間中に目標達成に向けた具体的な動きがあるかどうかについては、注視していく必要がある。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
企業の働き方改革やSDGsの取組を推進し、企業の魅力創出を図るとともに、企業の人材確保支援のため、事業を継続する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	B: 事業の進め方の改善検討					
令和3年度は、働き方改革推進企業として10事業者を認定し、SDGs推進企業として15事業者を登録した。昨今、SDGsに関心が集まっており、令和3年度は、SDGsに取り組む企業から、本制度への問い合わせが増えて、想定より登録事業者が多かった。一方で、企業の働き方改革は、目に見えない取組であり、新規認定事業者の掘り起こしが難しい。令和3年度は、年3回のワークショップを通じて、働き方改革を自社で取り組むための支援を行った。参加企業は少なかったが、参加者からは良い評価をいただけたと感じている。令和4年度は、より多くの企業が参加しやすい企画を考えたい。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	05011_02			
事業名(行目名称)		高齢者労働能力活用費	細事業名	シルバー人材センター運営補助金				
総合計画	まちづくり	経済・雇用	施策	雇用環境の充実				
	基本計画	働きやすい環境づくり	担当課	産業振興課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	就業により自らの生きがいを求める60歳以上の高齢者		数値	45128			
	手段(どうやって)	安定した事業運営を行えるよう、就業開拓、独自事業の拡充、ボランティア社会活動、会員の能力の向上などに取り組む。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者の生きがい対策、就業機会の確保のため、シルバー人材センターの機能充実に向けた支援を行う。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		25,629	25,629	25,629	25,629	運営費 7,329千円 高齢者活用・現役世代雇用サポート事業 18,300千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	25,629	25,629	25,629	25,629			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
会員数の増加			目標値	1000	1000	1000	1000	1000
			実績	766	707	716	669	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
労働力人口が減少する中、高齢者の就業が地域経済の活力維持に果たす役割は重要なものとなっており、会員の拡大や業務開拓等により、企業の人手不足分野への就業推進を図る運営を行う必要がある。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
シルバー人材センターは、高齢者が働くことを通じて生きがいを得るとともに、地域社会の活性化を図る事業を実施する団体であり、円滑で安定した運営を行えるよう、今年度と同様に実施する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
高齢者の安定した就業の場が確保され、健康増進、生きがいづくり、地域活動などに寄与した。今後も高齢者の生きがい対策、就業機会の確保のため、シルバー人材センターの機能充実に向けた支援を行う。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	05011_03			
事業名(行目名称)		高齢者労働能力活用費	細事業名	県シルバー人材センター連合会負担金				
総合計画	まちづくり	経済・雇用	施策	雇用環境の充実				
	基本計画	働きやすい環境づくり	担当課	産業振興課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	(公社)愛媛県シルバー人材センター連合会		数値	1			
	手段(どうやって)	(公社)愛媛県シルバー人材センター連合会へ負担金の支出						
	目的(どんな状態にしたいのか)	連合が行うシルバー人材センターの普及啓発事業、高齢者活躍人材育成事業、一般労働者派遣事業などが円滑に行えるよう協力する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		50	50	50	50	愛媛県シルバー人材センター連合会負担金 50千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	50	50	50	50			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
県シ連携における支障回数			目標値	0	0	0	0	0
			実績	0	0	0	0	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
連合会が行うシルバー人材センターの普及啓発事業、高齢者活躍人材育成事業、一般労働者派遣事業などが円滑に行えるよう協力する必要がある。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
愛媛県シルバー人材センター連合会との連携により、円滑かつ効果的な事業運営を行うため、翌年度も今年度と同様の対応とする。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
県シルバー連合会が行う事業が円滑に推進されたことに伴い、本市シルバー人材センターの事業の推進が図られた。今後も連合が行うシルバー人材センターの普及啓発事業、高齢者活躍人材育成事業、一般労働者派遣事業などが円滑に行えるよう引き続き実施する。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	05011_04		
事業名(行目名称)		高齢者労働能力活用費	細事業名	シルバー人材センター運営資金貸付金			
総合計画	まちづくり	経済・雇用	施策	雇用環境の充実			
	基本計画	働きやすい環境づくり	担当課	産業振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	就業により自らの生きがいを求める60歳以上の高齢者		数値	45128		
	手段(どうやって)	運営資金の無利子貸付を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者の生きがい対策、就業機会確保のため、シルバー人材センターが安定した運営を行えるようになる。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		30,000	30,000	30,000	30,000	運営資金貸付 30,000千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	30,000	30,000	30,000	30,000		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
資金貸付に伴う経費削減額(千円)			目標値	1300	1300	1300	1300
			実績	1300	1300	1300	1300
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
高齢者の生きがい対策、就業機会確保のため、シルバー人材センターが安定した運営を行う必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
シルバー人材センターは、高齢者が働くことを通じて生きがいを得るとともに、地域社会の活性化を図る事業を実施する団体であり、円滑で安定した運営を行えるよう、今年度と同様に実施する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
運営資金の無利子貸付を行い安定した運営を行うことができた。今後も継続して事業を実施し、高齢者の生きがい対策、就業機会確保のため、シルバー人材センターの安定した運営を図る。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	05030_01	
事業名(行目名称)		勤労者金融対策費	細事業名	労働金庫預託金			
総合 計画	まちづくり	経済・雇用	施策	雇用環境の充実			
	基本計画	働きやすい環境づくり	担当課	産業振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	市内の15～64歳の勤労者		数値	47908		
	手 段 (どうやって)	四国労働金庫新居浜支店と連携し、制度の積極的な利用を推進した。					
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	勤労者の生活の安定と福祉の向上に資するため、勤労者の生活に必要な資金を低利子で融資する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	勤労者融資預託金(福祉資金) 65,000千円 勤労者融資預託金(住宅資金) 230,000千円	
経費		295,000	295,000	295,000	295,000		
財 源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	295,000	295,000	295,000	295,000		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指 標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
融資枠に対する利用率			目標値	70	70	70	70
			実績	84.3	79	75.7	73.5
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
上半期の融資申し込みがないものの、勤労者の生活安定の一助として寄与するものであり、事業を継続して実施する。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
四国労働金庫と協議を行い、事業の継続実施に向け、現状に合った預託額を設定する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
年間を通して申込がなかったが、勤労者の生活安定と福祉向上を図るため、四国労働金庫と事業の継続に向け預託額等の協議を行い、継続して事業を実施する。							